○森田　真子・長田　芳子・横田ユキ子・
藤原　純江・藤岡　芳子・土岐　文武・
田中三千雄・赤上　晃・大坪　千秋・
中川　淳子・後町　暁子・山下　克子・
神津　忠彦・竹内　正・竹本　忠良

セルレインの消化器領域における臨床的応用について検討した結果を報告する.

セルレインは Erspamer らによつて，1967年にオーストラリア産のカエルの一種である Hyla caerulea の皮膚から抽出されたアミノ酸10個よりなる decapeptide である．その化学構造は，CCK-Pz や Gastrin と一部共通であり，作用機序も類似することが知られている．セルレインの利点は，純度の高い合成品であり，筋注可能で副作用が少ない，価格が安いなどの点である.

このセルレインの消化器領域における臨床的応用としては，膵疾患の診断および治療，胆のう胆道系疾患の診断および治療などが注目されている.

今回は，われわれの得た臨床経験について述べる．同一患者における膵機能検査 P-S テストと，パンクレオザイミンの代わりにセルレインを用いたセルレイン・セクレチンテストとの比較を行なつた．現行の P-S テストは，3因子の値を score であらわし total score で膵機能を判定しているが，この基準に従うと，セルレイン・セクレチンテストでは，3因子のうち最高重炭酸濃度が，11例中10例で P-S テストより低値を示した．最高重炭酸濃度値の低下を考慮し新しい判定表を作れば，パンクレオザイミンの代わりにセルレインを使用できることがわかつた．一方，血中アミラーゼ逸脱誘発テストは膵における障害の有無を判定する診断法の一つであるが，この誘発試験にセルレインが応用できるかどうかについて，目下検討中である．また，セルレインの胆のう収縮作用を臨床例において検討した結果も併せ報告する.

23．悪性関節リウマチについて

（整形外科）○楠本　剛夫・並木　脩
（内科）阿部　澄子
（皮膚科）細木　梅子・橋本　律子

慢性関節リウマチ患者のなかに，ごくまれに全身性の血管炎症状を呈して急激な経過をたどり，きわめて予後不良な重症活動性のものがあることがあり，Bevans はこれを malignant RA とよんだ．この疾患は，わが国では悪性関節リウマチとして昭和48年度に特定疾患に指定され，現在その実態調査がすすめられている.

本症は慢性関節リウマチの診断基準で「確定的」以上であり，かつ小中血管の血管炎によると考えられる多発性神経炎，皮膚硬塞または潰瘍，指趾壊疽，上鞏膜炎，胸膜炎，心嚢炎，心筋炎，肺炎，皮下結節，紫斑，出血，腸硬塞，心筋硬塞等の内臓虚血，などの中のいずれかを伴つたものをいう．今回われわれは文部省研究班により悪性関節リウマチと認定された2例を呈示し，本症の臨床像についてのべる.

症例1．62才男性．発熱を伴う肺異常陰影，難治性薬疹，糖尿病，多発性関節痛あり．プレドニン使用により一時軽快したが，約1年後咳嗽，喀痰が増加し，右胸膜腔に胸水貯溜および右肺野に異常陰影がみられた．プレドニン使用により軽快した.

症例2．42才男性．15年来皮膚乾癬症があつたが，昭和48年春頃より全身性紅皮症の形になり，その頃より多発性関節痛が生じた．昭和48年1月より発熱があり，気管支肺炎に罹患し，同時に胸水貯溜をみたが，リンデロン点滴静注により症状は緩解した．その後症状は悪化と緩解をくり返している.

24．原発性尿管癌について

（泌尿器科）
○東　ちえ子・梅津　隆子・吉田美喜子・
河野　南雄・高橋　通子・棚橋　豊子・
村岡　祝子

原発性尿管癌は元来稀なものとされていたが，近年その報告例は次第に増加の傾向にある．1930年 Rousselot and Lamon は50例の報告をみるにすぎなかつたとのべているが，その後20年間に 200例以上が報告され，本邦においても昭和47年10月迄に 340例の報告がある．これはもちろん泌尿器科的診断法が進歩したことによるとはいえ，やはり本腫瘍そのものが増加したことも否めない事実と考えられる．われわれは最近3例の原発性尿管癌を経験したので報告した．症例，1） 65才男子，主訴は右側腹痛と右下肢浮腫，発生部位は右下$^1/_3$，腎・尿管摘除（膀胱部分切除不可能）.組織学的に乳頭状癌，7カ月後死亡（原因不明）.57才女子，発生部位は左下$^1/_3$，腎・尿管摘除，組織学的に移行上皮癌．約6カ月後，左尿管口に同様癌再発．体外照射，退院後（術後約3年）尿毒症で死亡，3） 73才男子，主訴は血尿および右下腹部痛，発生部位は尿管中部．腎・尿管および右膀胱部分切除施行．3カ月後小腸に転移．術後6カ月腸閉塞にて死亡．組織学的に基底細胞癌であつた．以上，原発性尿管癌の3症例を報告すると共に若干の文献的考察を加えた.

25．非治癒切除進行胃癌（Stage III, IV）に併用せ